

2026年8月期決算説明資料

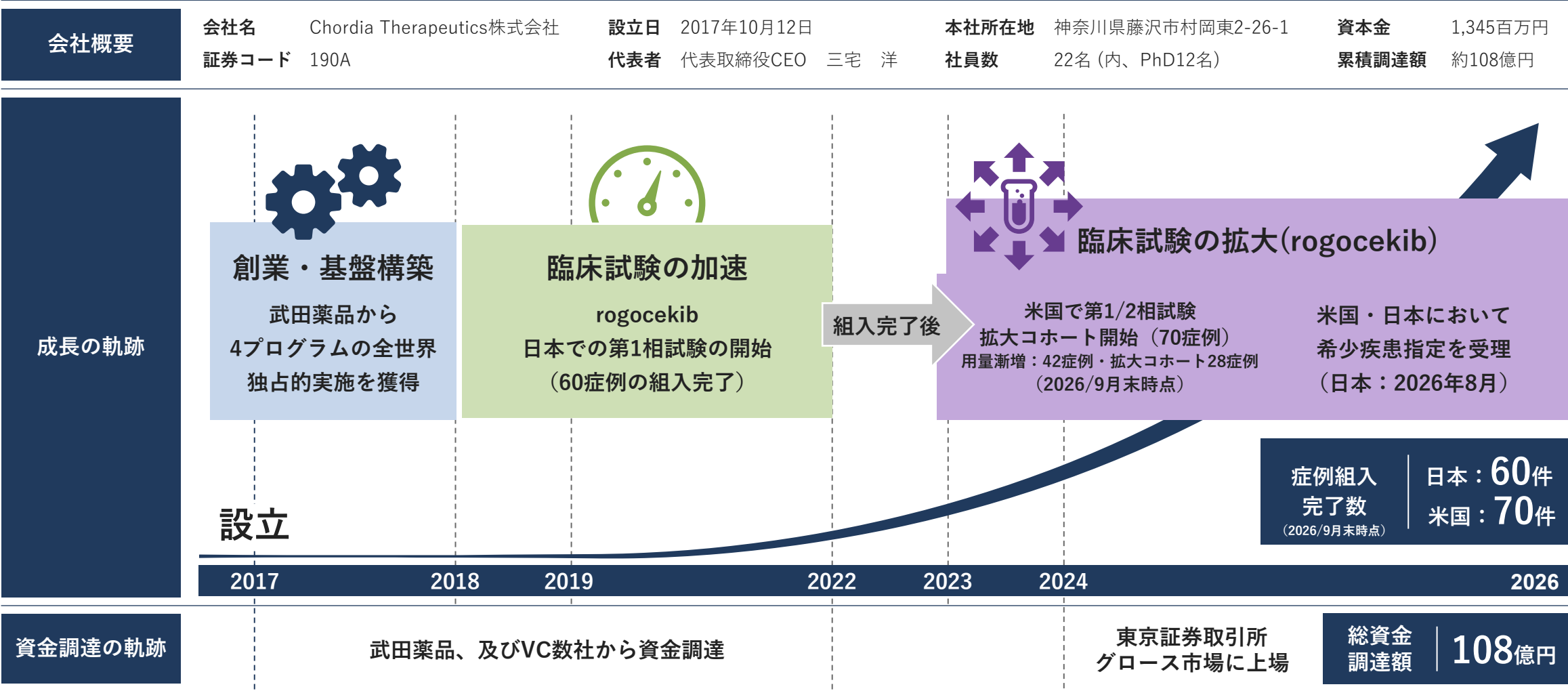
Chordia Therapeutics株式会社
(証券コード：190A)

2026年10月15日

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2026年8月期のハイライトと振り返り	P.	6
3.	2026年8月期業績及び財政状況	P.	9
4.	パイプラインの進捗状況	P.	14
5.	2027年8月期に向けての主な事業目標	P.	23

会社概要及び沿革



多様な専門性で事業成長を加速する経営体制

- CEOと専門性豊かな社外取締役が、迅速な意思決定で事業成長をけん引

代表取締役



CEO
三宅 洋

- 2017年10月にChordia Therapeuticsを共同創業（CEOに就任）
- 武田薬品工業で20年以上創薬研究に従事し、がん創薬ユニットの日本サイトヘッドを歴任、6つのプログラムにおいて臨床試験開始に貢献
- 大阪大学薬学部卒業、東京大学大学院 薬学系研究科博士課程修了、薬学博士

社外取締役



戦略助言

中村 学
（新生キャピタルパートナーズ代表取締役）

社外取締役



戦略助言

土屋 裕
（元 エーザイ代表執行役、マルホ社外取締役）

社外取締役



戦略助言

平崎 誠司
（元 アンジェス取締役、元 オリシロジェノミクス代表取締役）

監査等委員（社外取締役）



会計

石井 幸佑
（公認会計士／
ラクオリア創薬社外取締役）



研究開発

西方 ゆかり
（元武田薬品工業オンコロジー領域
ユニット日本・アジア代表）



法律

橋本 阿友子
（弁護士：骨董通り法律事務所）

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2026年8月期のハイライトと振り返り	P.	6
3.	2026年8月期業績及び財政状況	P.	9
4.	パイプラインの進捗状況	P.	14
5.	2027年8月期に向けての主な事業目標	P.	23

研究開発の進展と事業基盤の強化を推進

研究開発

rogocekib

臨床試験
症例登録総数

**日米129名
症例登録を完了**
(2026/8月末時点)

日本

**再発又は難治性の急性骨髄性白血病を対象とした
希少疾病用医薬品に指定**
2026年8月

海外

**EHA 2026 米国第1/2相試験
用量漸増コホートの中間成績を発表**
2026年6月

CTX-439

京都大学との共同研究の論文掲載
2026年3月 *Molecular Cancer Therapeutics*
2026年6月 *Cell Death & Disease*

CTX-177

成人T細胞白血病／リンパ腫（ATL）に
おける役割と治療標的としての
可能性を論文発表
2026年8月 *iScience*

コーポレート活動

事業基盤の強化

- ・ AMED大型補助金に採択（上限15億円/国際共同治験の補助対象経費の1/2）、眼科疾患領域における共同研究

IR活動（国内外で積極的なIR活動を展開/対話機会の拡充）

- ・ 海外投資家向けIRカンファレンスに参加（Bio International Convention 2026、Bio Asia Taiwan 2026）
- ・ 個人投資家向けIRセミナー、第9回資産運用EXPO、投資勉強会、バイオ・ヘルスケア合同セミナーなどに参加

2026年8月期の振り返り



達成

rogocekib(CTX-712)
承認への臨床試験の進捗

米国第1/2相試験における拡大コホートの開始（症例組入れの加速）と、大手国際学会での第1相パート中間報告を通じて、臨床試験を推進します。

達成状況

達成 拡大コホートの開始

達成 EHAで第1相パート中間成績を発表



未達成

新規事業提携に関する
積極的な取り組みを行う

CTX-177の再導出を重点課題としつつ、CTX-712など複数パイプラインで国内外企業との提携協議を継続し、確定次第、適時適切な情報開示を行います。

達成状況

未達成 CTX-177の再導出（解約合意済）

継続 各種パイプライン導出活動を継続



達成

株主に対しての情報開示を
適切に実行する

年1回以上の国内外学会での研究進捗発表に加え、投資家向けセミナーの開催やCEOからの積極的な情報発信により、コミュニケーションを密に行います。

達成状況

達成 個人投資家セミナー・IR出展

達成 企業調査レポートのHP開示

【総括】 研究開発及び情報開示は概ね計画どおり進捗した一方、事業提携の実現には至らなかった。また、臨床開発の進展が企業価値評価に十分反映されていないとの認識のもと、今後は開発進展に加え、事業提携及びAMED GRiT等の助成金の活用による財務基盤の強化を通じて企業価値向上施策に取り組む。

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2026年8月期のハイライトと振り返り	P.	6
3.	2026年8月期業績及び財政状況	P.	9
4.	パイプラインの進捗状況	P.	14
5.	2027年8月期に向けての主な事業目標	P.	23

2026年8月期の業績（損益計算書）

● 拡大コホートの開始に伴い米国CRO費用は増加した一方、治験に必要な原薬・製剤を一定量確保済みであり、当期の製造関連費用が限定的であったことから、研究開発費は前年同期比で減少している。

単位：百万円

	2025年8月期 通期実績	2026年8月期 通期実績	増減
事業収益	-	-	-
直接費	-	-	-
R&D費用	1,425	1,155	△270
rogocekib (CTX-712)	1,067	795	△272
CTX-177	0	10	+ 10
CTX-439	27	19	△ 8
その他（含む人件費）	331	330	△ 1
その他一般管理費	364	318	△46
営業損失（△）	△1,789	△1,473	+ 316
営業外収益/特別利益	24	56	+ 32
営業外費用/特別損失	17	35	+ 18
税引前当期純損失（△）	△1,783	△1,452	+ 331
法人税等	2	2	-
当期純損失（△）	△1,785	△1,455	+ 330

2026年8月期のポイント

- rogocekib: CTX-712（CLK）：
 - ・第1／2相臨床試験において、42症例のデータに基づき拡大コホートへの移行基準を満たす用法・用量を確認し、2026年3月よりIEコホートを開始。
 - ・IEコホートの開始及びマイルストーン達成に伴う費用により米国CRO費用の増加（+248百万円）
 - ・当年度において、原薬・製剤関連コストが減少（△521百万円）
- その他一般管理費：
 - ・減資に伴う外形標準課税の減少
 - ・特許関連コストの減少
 - ・固定費削減施策の影響による減少

2026年8月期の財政状況（貸借対照表）

●第9回新株予約権の行使による資金調達を進め、2026年8月期末の現金及び預金は2,052百万円。今後1年間の事業活動に必要な資金を確保し、財務基盤を維持している。

単位：百万円

	2025年8月末 残高	2026年8月末 残高	増減
流動資産	2,669	2,102	△567
現金及び預金	2,548	2,052	△496
その他	120	50	△70
固定資産	12	12	-
資産合計	2,681	2,114	△567
流動負債	244	188	△56
固定負債	-	-	-
負債合計	244	188	△56
純資産合計	2,437	1,925	△512
負債及び純資産合計	2,681	2,114	△567

2026年8月期のポイント

- 流動資産、純資産：
 - ・現金及び預金：営業活動による支出1,418百万円に対して、新株予約権の行使による収入927百万円の影響のため
 - ・純資産：増資に伴う増加に対して、当期純損失の影響のため

第12回新株予約権による資金調達

●今後1年間の事業活動に必要な資金を確保した上で、rogocekibの拡大コホートの完遂、Phase 2開始準備及びその後の開発・事業展開に関する選択肢を維持し、財務的柔軟性を確保するため、新たな資金調達を実施。あわせて、固定費の効率化と経営資源の最適配分を進め、rogocekibの開発に一層集中。

1,506

百万円

差引手取概算額（当初行使価額ベース）

23.84%

最大希薄化率（議決権ベース24.99%）

約2年

行使期間（2026/9/11～2028/9/8）

項目	内容
割当先	野村證券株式会社
取締役会決議日	2026年8月24日
割当日・払込期日	2026年9月9日（払込完了）
発行総数	184,220個
潜在株式数	18,422,000株
行使価額	当初82円／下限41円 （行使価額修正条項付）
主な条項	停止指定条項付

調達資金の使途

- ・ rogocekibの拡大コホートの完遂及び薬物相互作用（DDI）試験の実施に充当
- ・ 2027年中期の第2相臨床試験の開始に向け、開発を計画どおり推進
- ・ AMED「GRiT」等の非希薄化資金も活用し、国際共同治験を含む開発を推進

既存の新株予約権の取扱い

- ・ 第9回：残存分を取得・消却（2026年9月9日）
- ・ 第10回・第11回：資本政策上の選択肢として存続。急激な希薄化を避けるため、第12回の調達を優先して行使停止を指定

出所：当社2026年8月24日付及び9月9日付適時開示 ※調達額は行使状況及び株価推移により増減する

AMED「GRiT」事業に採択

● rogocekibの国際共同治験がAMED「GRiT」に採択 — 最大15億円の支援を受ける見込み

当社の採択内容		GRiTとは	
■ 採択事業	令和8年度「革新的医療技術研究開発推進事業（産官学共同型）グローバルタイプ（難病・希少疾病治療グローバル研究開発支援事業）」	難病・希少疾病を対象とする医薬品等のシーズの実用化促進を目的に、国際共同治験を支援するAMED事業	
■ 事業課題名	再発又は難治性AML／高リスクMDSを対象としたCTX-712（rogocekib）の第I／II相試験	Global Research and Development Support Project for the Treatment of <u>I</u> ntractable / Rare Diseases	
■ 支援額	最大15億円の競争的資金の支援を受ける見込み（国際共同治験の補助対象経費の1/2）	対象	難病・希少疾病に対する医薬品等の国際共同治験
■ 今後の開発	日本も参加する国際共同治験として開発を進める	補助率	補助対象経費の1/2
■ 希少疾病指定	米国FDAよりオーファンドラッグ指定（AML）、日本で希少疾病用医薬品指定を取得済み	上限	補助金 最大15億円 ※ 実際の交付額は今後の研究計画等に基づき決定
		期間	原則3年以内

公的支援を活用し、希少血液がん領域におけるrogocekibのグローバル開発を着実に推進していきます

出所：AMED「革新的医療技術研究開発推進事業（産官学共同型）グローバルタイプ（難病・希少疾病治療グローバル研究開発支援事業）」公募情報、当社2026年9月30日付適時開示

目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2026年8月期のハイライトと振り返り	P.	6
3.	2026年8月期業績及び財政状況	P.	9
4.	パイプラインの進捗状況	P.	14
5.	2027年8月期に向けての主な事業目標	P.	23

5つのパイプラインのうち、2つは臨床ステージ ～市場性の高いrogocekibに集中し、価値創出を加速～

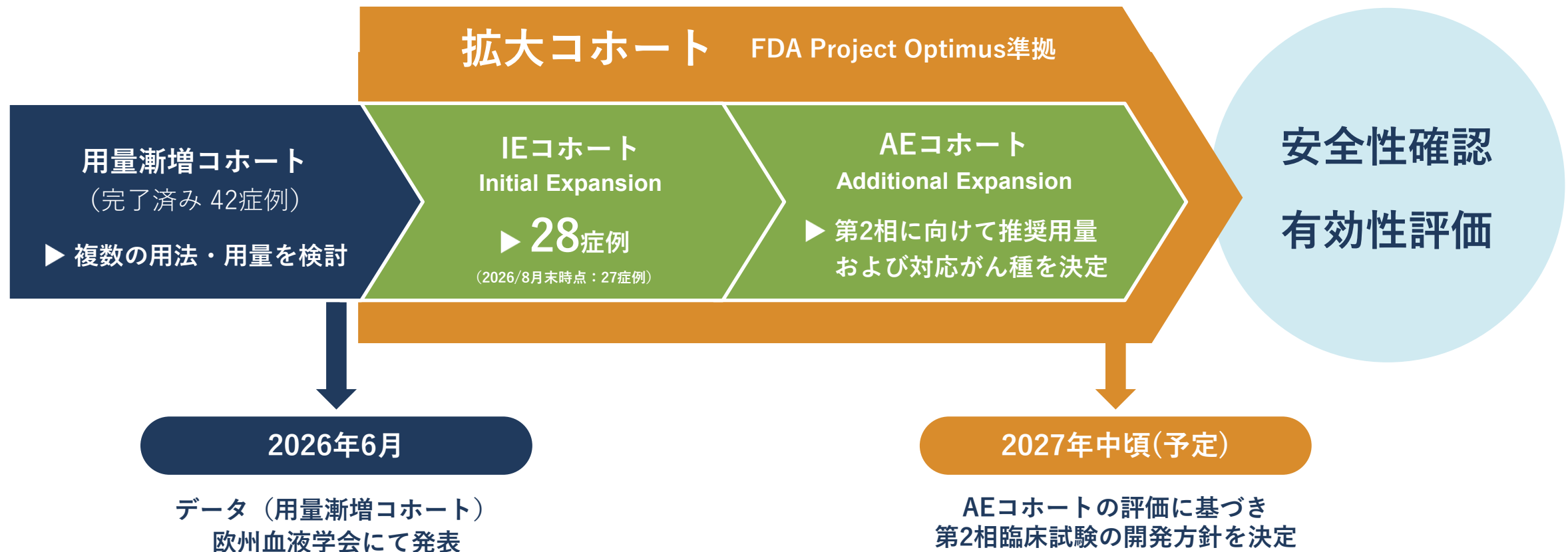
- 市場ポテンシャルを有する rogocekibに経営リソースを集中し、自社開発又は他社との提携を通じて日米における開発を推進
- その他のパイプライン（CTX-177/CTX-439/GCN2）は、提携を通じて収益化等の機会を検討

	標的	開発コード	一般名称	主な適用がん種	開発ステージ	現時点での 想定オプション
①	CLK阻害薬	CTX-712	rogocekib	急性骨髄性白血病(AML)、 骨髄異形成症候群(MDS)、 卵巣がん、その他固形がん	日本第1相試験終了、 米国第1/2相試験	日米：自社開発/提携
②	MALT1阻害薬	CTX-177	ocipumaltib	リンパ系腫瘍	第1相試験	提携
③	CDK12阻害薬	CTX-439		固形がん	前臨床試験終了	提携
④	GCN2阻害薬	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	提携
⑤	非公開	開発コード なし		固形がん、血液がん	前臨床試験	提携

rogocekib CTX-712(CLK阻害薬) : 拡大コホートの推進

拡大コホートの目的

安全性確認と有効性評価に基づき、推奨用量及び対応がん種を決定



rogocekib：EHA 2026 中間成績の発表概要

●治療が難しい再発又は難治性の骨髄性腫瘍患者を対象とした用量漸増コホートのデータを発表

発表概要

項目	内容
学会	欧州血液学会（EHA）2026年次総会 （2026年6月11日～14日、ストックホルム）
演題番号・形式	EHA-3974／ポスター発表（6月13日）
試験	米国第1/2相試験（CTX-712-CL-02） 用量漸増コホート
対象	再発又は難治性AML、高リスクMDS、 MDS/MPN（CMMLを含む）
症例数	42例
投与方法	経口・週1回（QW）又は週2回（BIW）

患者背景（n=42） — 高齢・多治療歴・予後不良リスクの患者が中心



疾患内訳



主な遺伝子変異：スプライシング因子 SRSF2 32.4%、SF3B1 17.6%、U2AF1 8.8%、ZRSR2 5.9%
（MDSはIPSS-R High/Very Highが73.7%）

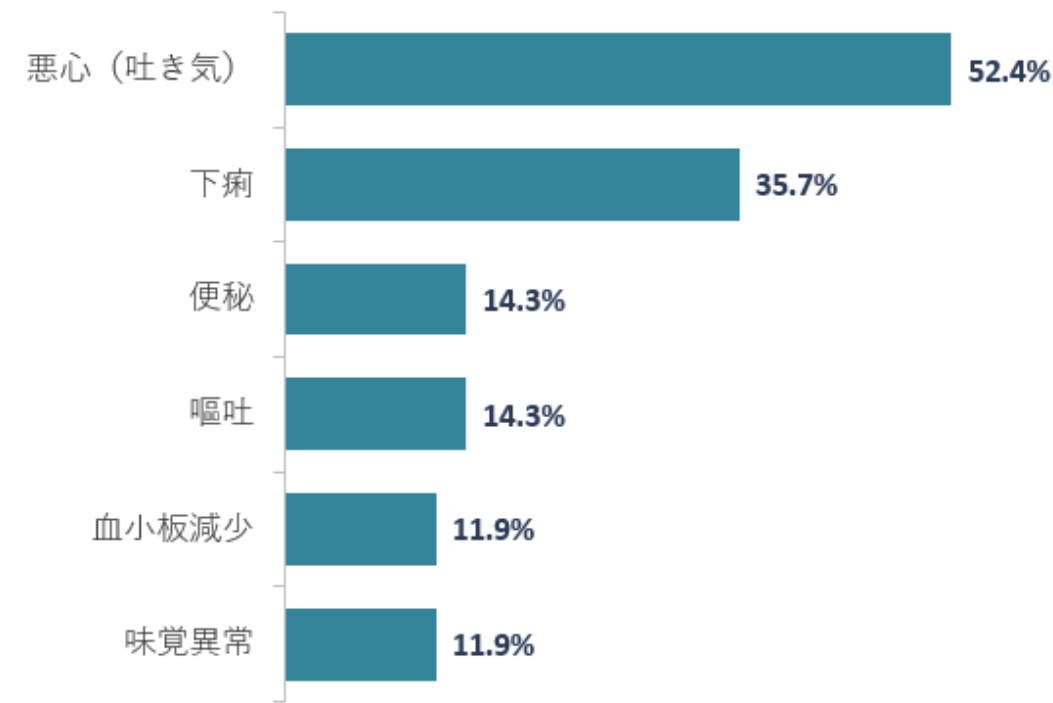
【用語解説】
再発又は難治性：既存の治療で十分な効果が得られなかった（難治性）、又は一度効果が得られた後に再び悪化した（再発）状態
骨髄性腫瘍：骨髄で血液細胞がつくられる過程で骨髄系細胞に異常が生じる血液がんの総称（急性骨髄性白血病（AML）、骨髄異形成症候群（MDS）等）

出所：当社「EHA2026 中間成績発表における補足説明資料（EHA-3974）」（2026年6月15日） データカットオフ：2026年4月30日

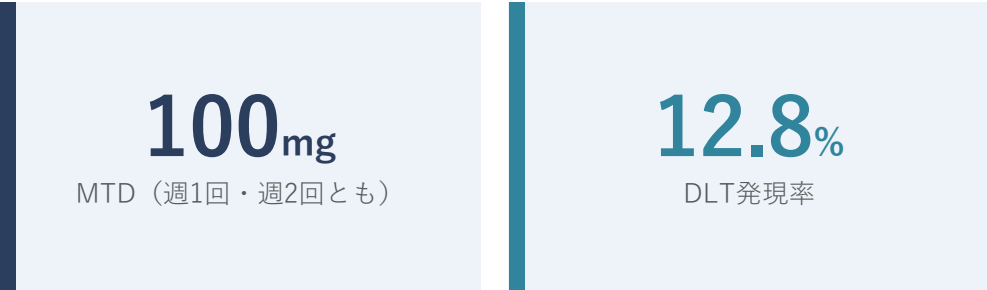
rogocekib：安全性（EHA 2026）

●主な副作用は消化器症状が中心で血液毒性は限定的であり、管理可能な安全性プロファイルを確認

主な副作用の発現頻度（n=42）



最大耐量（MTD）・用量制限毒性（DLT）



DLT発現コホート	例数	事象
80mg QW	1例	低血圧
140mg QW	2例	呼吸困難、心嚢液貯留、胸水、低血圧
80mg BIW	1例	出血性食道炎
100mg BIW	1例	ALT増加、AST増加

出所：当社「EHA2026 中間成績発表における補足説明資料（EHA-3974）」（2026年6月15日） データカットオフ：2026年4月30日 QW：週1回投与、BIW：週2回投与

rogocekib：有効性（EHA 2026）

●再発又は難治性の患者において、単剤での抗腫瘍活性を確認

11.8%

全奏効率（ORR）：評価可能34例中4例
（CRi 3例、mCR 1例）

29日

寛解までの期間（中央値）
約1か月で効果が発現

157日

奏効期間（中央値）
約5か月間効果が持続

サブグループ別の奏効率

対象・用法用量	効果	奏効率
AML／100mg 週1回	CRi	50%（2/4例）
AML／80mg 週2回	CRi	20%（1/5例）
MDS／80mg 週1回	mCR	25%（1/4例）
【参考】日本第1相試験（CL-01） AML 12例、MDS 2例/70mg又は105mg 週2回	CR 4 CRi 1 MLFS 1	ORR 42.9%（6/14例）

※サブグループは例数が少なく、拡大コホートでの確認が必要。他試験との単純比較はできません。
※日本第1相試験は患者背景・用法用量等が異なるため参考値であり、EHA 2026発表データとの単純比較はできません。

ORR：全奏効率（CR、CRi、MLFS（AML）又はmCR（MDS）等の奏効が得られた患者の割合）
CR：完全寛解、CRi：血球回復が不完全な完全寛解、MLFS：形態学的無白血病状態、mCR：骨髄完全寛解、MLFS：形態学的無白血病状態

出所：当社「EHA2026 中間成績発表における補足説明資料（EHA-3974）」（2026年6月15日） データカットオフ：2026年4月30日

注目点

日米試験で単剤での抗腫瘍活性を確認

- 日本試験（ORR 42.9%）と米国試験（ORR 11.8%）では、いずれも単剤での奏効を確認。米国試験には低用量症例が含まれるなど、患者背景や用法用量が異なり、奏効率の単純比較はできない。今後、拡大コホートで有効性の再現性を検証する。

ベネトクラクス抵抗性例で奏効

- CRiを達成したAML 3例は全例がベネトクラクス抵抗性。うち2例は4回以上の前治療歴あり

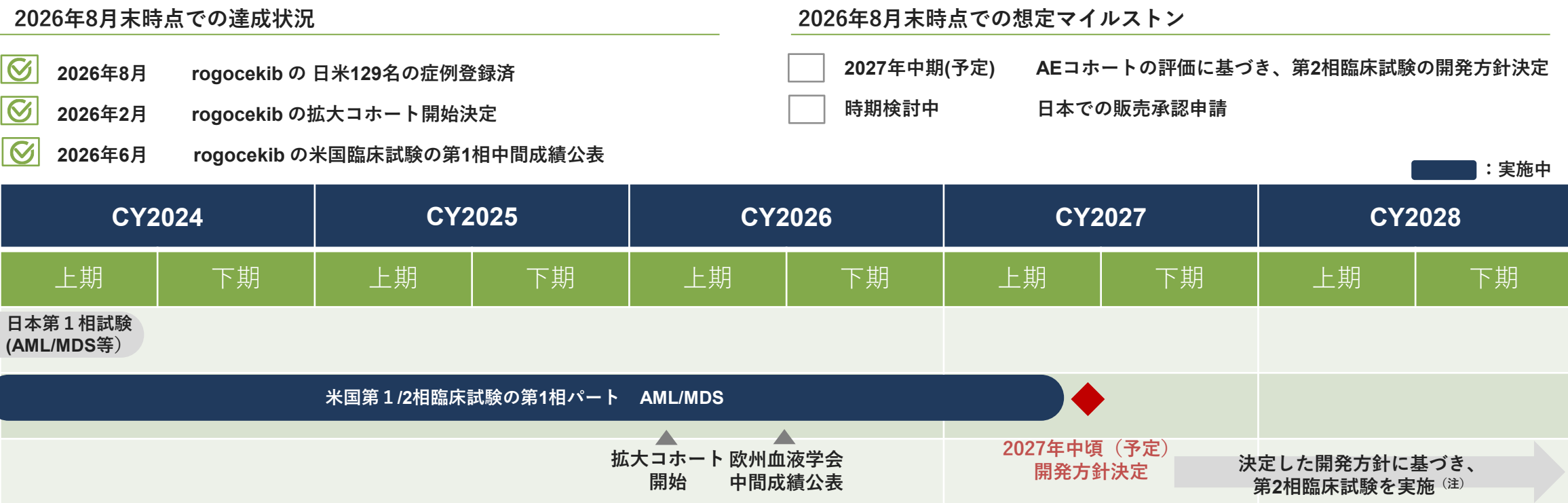
芽球の減少

- 全体：27例中10例で芽球50%以上減少
- スプライシング因子変異陽性：14例中5例で芽球50%以上減少

rogocekib CTX-712(CLK阻害薬)の開発マイルストーン

～日米129名の症例登録と臨床試験のプロセスが着実に進捗～

- 臨床試験の症例組入は着実に進行中(日米129名症例登録済（2026/8月末時点）)、米国FDAから希少疾病用医薬品（Orphan Drug）指定を受けているほか、2026年8月には、日本において再発又は難治性AMLを対象とする希少疾病用医薬品の指定を受けている
- 2026年9月にAMEDのGRiTにrogocekibの研究開発課題が採択された。これを踏まえ、従前は第2相試験から予定していた日本施設での患者組入を、より早期の段階から実施する可能性を検討。AEコホートの評価結果等を踏まえ、今後の開発方針及び販売承認申請の目標時期を決定する予定である。具体的な計画については、決定次第開示する予定である。



収益化戦略と「選択と集中」

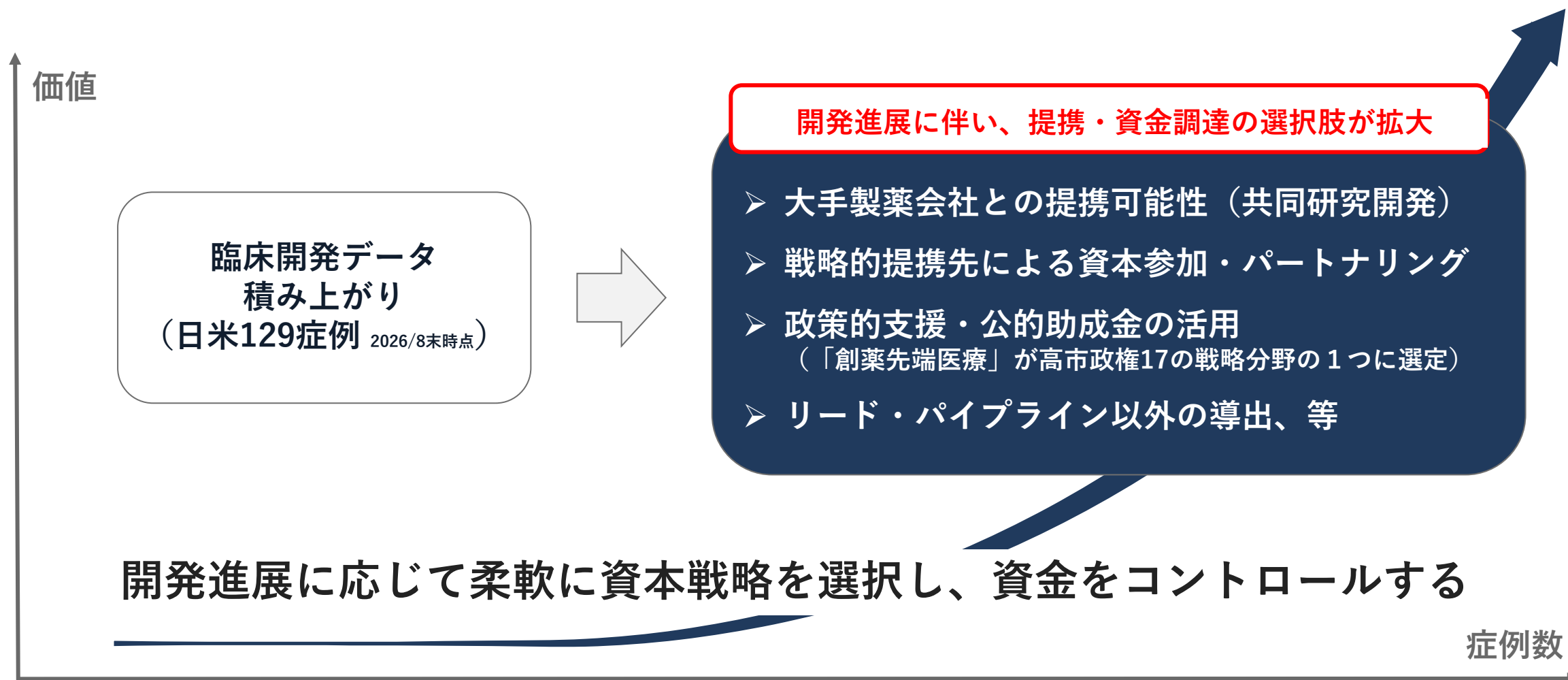
～戦略（開発期間の短縮）×「選択と集中」（低分子・ファーストインクラス・プレシジョン）～

- 探索から臨床研究へ重点を置くことで、開発期間を大幅に短縮させ価値創出を早期化
- 低分子医薬品（製造リスク低）・ファーストインクラス（世界初）・プレシジョン（成功率の向上）にて、リスク低減と高リターンを実現
- 大手製薬会社と同水準の開発力を有するチーム（半数がPhD）による推進



不確実性に対応しつつ、価値創出を加速する多様な資本戦略

- 日米における臨床データの積み上がり（リスク/不確実性減、価値増）に伴って、多様な資本戦略オプションが拡大



目次

1.	会社概況	P.	3
2.	2026年8月期のハイライトと振り返り	P.	6
3.	2026年8月期業績及び財政状況	P.	9
4.	パイプラインの進捗状況	P.	14
5.	2027年8月期に向けての主な事業目標	P.	23

2027年8月期に向けての主な事業目標

- 第2相臨床試験の開始に向けてrogocekibの開発を推進し、事業提携を含む選択肢を維持しながら価値最大化を図る

1 開発

rogocekibの第2相臨床試験 開始に向けた開発推進

IEの結果を踏まえAEへ移行し、AMED GRiTを活用しての日本を含む国際共同治験としての開発に向けた検討及び準備

主な取組み

- AEの開始
- RP2D（推奨用量）と対象疾患の決定
- AMED GRiTを活用した日本を含む国際共同治験の準備
- AEコホートの評価に基づき、第2相臨床試験の開発方針決定（2027年中期）

2 事業提携

価値最大化に向けた 事業提携の追求

提携の時期・形態を限定せず、パイプライン価値の最大化を目的として国内外の提携機会を追求する

主な取組み

- rogocekib：臨床データを活用した提携協議の推進
- ocipumaltib：再導出を含む事業開発
- CTX-439・GCN2：早期パートナーリングの検討

3 財務基盤

財務基盤の強化

開発の進捗を適時に発信して企業価値の向上を図り、開発資金を着実に確保する

主な取組み

- 開発進捗の適時適切な情報開示を通じた第12回新株予約権による資金調達の推進
- AMED GRiTの活用による国際共同治験の費用負担の軽減
- 固定費の効率化とrogocekibへの資源集中

※時期は現時点の見込みであり、開発の進捗、規制当局との協議内容及び外部環境等により変更となる可能性がある

Tomorrow is Another Day

明日に希望を感じる社会の実現

「日本発」「世界初」のこれまでにない新しい抗がん薬を、
一日でも早く患者様のもとに。

———— Mission ————

We are passionate to deliver first in class cancer drugs to patients.

First in Class 抗がん薬を創る

———— 2030 Vision ————

To be an R&D oriented pharmaceutical company based in Japan.

日本発の研究開発型の製薬会社になる

4 件の物質特許とそれを支える複数の用途特許・製法特許

● 武田薬品工業からライセンスを受けた物質特許が十分に特許期間を有していることに加え、臨床入りしているプログラムでは用途特許や製法特許の取得による知財権利の確保を推進し、順調に登録済国数は増加

物質特許						
	出願番号	基礎出願日	国際公開日	国際公開番号	登録済国数	特許権者
rogocekib CTX-712 (CLK阻害薬)	PCT/JP2017/016717	2016年4月28日	2017年11月2日	WO2017/188374	51	武田薬品工業
	PCT/JP2023/013361	2022年3月31日	2023年10月5日	WO2023/190967	—	当社および 国立がん研究センター
	PCT/JP2025/000724	2024年1月12日	2025年7月17日	WO2025/150571	—	当社
ocipumaltib CTX-177 (MALT1阻害薬)	PCT/JP2019/046261	2018年11月28日	2020年6月4日	WO2020/111087	18	武田薬品工業
	PCT/JP2021/019911	2020年5月27日	2021年12月2日	WO2021/241611	2	武田薬品工業
	PCT/JP2023/003154	2022年2月2日	2023年8月10日	WO2023/149450	—	当社
CTX-439 (CDK12阻害薬)	PCT/JP2019/013531	2018年3月29日	2019年10月3日	WO2019/189555	51	武田薬品工業
— (GCN2阻害薬)	PCT/JP2017/028928	2016年8月10日	2018年2月15日	WO2018/030466	50	武田薬品工業

免責事項

- 本資料は、関連情報の開示のみを目的として当社が作成したものであり、米国、日本国またはそれ以外の一切の法域における有価証券の売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘を構成するものではありません。
- 米国、日本国またはそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録もしくは届出またはこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集または販売を行うことはできません。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。
- 将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。
- 将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。
そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。
したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

